

**経営発達支援事業(米沢市)**  
**令和3年度 事業評価委員会 報告書**

1. 日 時 令和3年10月29日(金) 9時30分～10時40分
2. 場 所 米沢商工会議所 第3会議室
3. 出席者名 資料 出欠名簿のとおり 計 14名
4. 議事の経過  
加藤英樹委員(米沢商工会議所副会頭・税理士)の挨拶の後、加藤委員が議長となり以下の議題について審議に入る。

**<議 題>**

**(1) 本委員会役員を選任について【審議】**

事務局より、資料P2～3の経営発達支援事業評価委員会設置規程を説明。規程に基づき、役員を選任。互選にて委員長に加藤英樹氏(米沢商工会議所副会頭・税理士)、副委員長に高橋哲男氏(社会保険労務士)を選任した。

**(2) 経営発達支援計画の概要について【説明】**

事務局より、令和2年3月認定の第2期経営発達支援計画について、資料P4～8、ならびに経営発達支援計画書に基づき、説明を行った。

**(3) 令和2年度事業報告および令和3年度事業進捗状況について【説明】**

事務局より、資料P9～12、別添資料に基づき、令和2年度事業報告・令和3年度の事業進捗状況について説明を行った。

**【実施概要】**

(事業計画作成/フォローアップ)

- ・米沢商工会議所では経営発達支援事業に基づき、簡易な経営分析を行う支援対象者の抽出(掘り起こし)機会を増やしつつ、より詳細な経営分析を行い、経営状況から問題点を正確に把握・分解し、課題を抽出し、事業計画を決定している。その中で、事業計画作成を行った事業所数は目標の50件に対し、55件であり、そのフォローアップも目標200回に対し、217回と目標を上回った。
- ・経営指導員側では限られた人員と支援にかかる時間も不足する中で、支援内容を平準化し、支援能力の向上と効率化を図ることが求められるため、より積極的なIT活用を推進する必要がある。そのため、全国200以上の商工団体が運用する経営支援基幹システム「BIZ ミル」を活用し、経営分析から事業計画書まで一貫した支援ならびに事業者へのフィードバックと情報共有を実現している。

(地域の経済動向／需要動向調査)

- ・地域の経済動向や需要動向の現状把握を行うため、事業者ならびに地域イベントや施設への来場者(消費者)を対象にアンケート調査等を実施。小規模事業者が調査結果を活用できるよう、米沢商工会議所所報やホームページ等で広報を行っている。事業者へのアンケート調査は目標通りであるが、消費者アンケートはコロナ禍でイベントそのものが中止となっているため、不十分な結果となっている。

(新たな需要の開拓に寄与する事業)

- ・事業計画作成セミナーでの個別相談会で個々の商品企画や商談能力向上などノウハウ取得へつなげたうえで、米沢市ブランド推進事業との連携や一店逸品事業・まちなかゼミナールなどでの販路拡大を図った。
- ・しかしながら、コロナ禍での相次ぐ商談会の中止等で目標に至らなかった。

(米沢商工会議所の具体的支援事業所)

- ・2件を紹介

#### (4) 各委員からの意見および提言等【評価】

加藤委員長より事務局が説明した内容について各評価委員に意見・質問を促した。

意見ならびに質問は以下の通り。

- ・コロナ禍、手探りで難しい中、適切に対処されていると思う。ただ、今後はさらにわからない時代に突入する。事業計画のスピードを上げてどんどん試すことが必要なのかもしれない。指導員はスピード感をもって相談にあたるべきである。
- ・飲食業を中心に非常に厳しい声が聴かれる。本当に心配だ。その中で商工会議所への役割が大きくなっている。ブランド戦略との連携は特に重要。取り組み事例を具体的に教えてほしい。また、事業計画作成や専門家派遣について、どのように掘り起こしを行っているのか示してほしい。  
→米沢商工会議所の各部会で専門家のセミナー、具体的事例を発表し、意欲向上を図っていると回答。
- ・売上向上の事業所や成果をどのように国に報告しているのか教えてほしい。  
→本日資料と同等の定性的な報告ならびに経営指導員がBIZミルに入力した国の報告フォームに沿った各事業所の決算書データ等を報告していると回答。
- ・金融機関や行政等との連携は特に重要であり、協力体制を図ってほしい。また、会員だけの支援なのか教えてほしい。  
→事例で金融機関との相互紹介があること、ならびに非会員であっても対応した事例を回答。
- ・一つの事業所だけが良くなっても、全く伸びていかない。その業界の複数事業所が良くなることによって全体が伸びていく。商工会議所は一步踏み出せない人の支援、心のメンテナンスも重視すべきである。

- ・ゼロゼロ融資の期限切れが迫っている。今後は「やる気」と「事業計画」と「金融機関の支援」の3つが事業継続のカギだと思っている。廃業も多くなっている。よねざわ逸品研究会の事例のように、事業者に対して、事業に対する気持ちを持続・継続させることが必要なのではないか。心にも寄り添えるよう、支援内容をバージョンアップしていただきたい。

以上の意見・評価をいただいた。

## (5) その他

次回、評価委員会は経営発達支援計画に基づき、令和4年度に令和3年度の事業結果がまとまった時点でできる限り早く開催することとした。

以上をもって会議を終了した。

### 【評価委員からの指摘事項について事業実施の見直し検討】

- ①コロナ禍だからこそその事業変革のチャンスであることを周知し、例としてコロナ禍の中でも売上を伸ばした事例や取引先を増やした事例などを広く紹介し、関心を深めてもらい、計画作成の意義と効果をPRしていく。そのために、SNS等を活用し、さらなる発信をする。また、事業者アンケートを行った結果を踏まえ、セミナー等は講師と開催時期や開催方法について検討し、事業者の意見も参考にしながら、より事業者が受講しやすいよう実施する。
- ②米沢商工会議所では米沢市とともに事業承継・デザイン・フードビジネス・ブランディング・工業技術・人材育成など幅広い分野の専門家や機関を招聘できる制度を設置している。加えて、事業計画を作成し、新たな分野に取り組む事業所のための補助金も整備した。  
一歩を踏み出しやすい環境を整えるとともに、金融機関や幅広い専門家と連携しながら、種々の支援が途切れないよう注意を払っていく。

### 【当日の様様】

